連続シンポジウム
「世界哲学・世界哲学史を再考する」第四回

中世と近世のあわい

【日時】
2021 年 5 月 31 日（月）
17:00~19:00

【場所】 Zoom ミーティング
https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZMkd-ugpjwvE9VpXdrf4lMrgxnBQyOOJ8gW

※要事前登録

【言語】 日本語

報告者：山内志朗、蓑輪顕量、渡辺優、納富信留（司会）
コメンテーター：田中浩喜

【プログラム】

趣旨説明（納富）	：17:00-17:10
バロックスコラから見た世界哲学（山内）	：17:10-17:30
教理と実践——古代・中世の仏教者の見ていたもの（蓑輪）	：17:30-17:50
神秘主義と愛知——世界哲学史と神秘主義研究の接点を求めて（渡辺）	：17:50-18:10
コメント（田中）	：18:10-18:20
報告者間の討論	：18:20-18:50
まとめと今後の課題（納富）	：18:50-19:00

EAA
EAST ASIAN ACADEMY FOR NEW LIBERAL ARTS
東アジア藝文書院

『世界哲学史』シリーズ(ちくま新書、 2020)では、同時代に異なる地域で展開された哲学が検討されています。

今回のシンポジウムでは、西洋中世・近世哲学の専門家でシリーズの編集にもあたられた山内氏と、第４巻「 第９章　鎌倉時代の仏教」を執筆いただいた蓑輪氏、第５巻「 第２章　西洋近世の神秘主義」を執筆いただいた渡辺氏にご報告いただき、世界哲学史において中世から近世がもつ意義を、主に宗教との関係で論じていきます。

【主催】
東京大学東アジア藝文書院（EAA）

【共催】
哲学会

【連絡先】
納富信留 notomi@l.u-tokyo.ac.jp